



SHOGAKU GAKUEN EDUCATIONAL FOUNDATION

INTERNATIONAL BACCALAUREATE DIPLOMA PROGRAMME

2021-2022

IB の使命

国際バカロレア (IB) は、多文化に対する理解と尊敬を通じて、平和でより良い世界の実現のために貢献する、探究心、知識、そして思いやりのある若者の育成を目的としています。

この目的のため、IBは、学校、政府、そして国際機関と協力しながら、高度な国際教育プログラム及び厳格な評価を開発しています。

IBのプログラムは、世界中の児童・生徒に対し、他の人たちをその違いと共に理解し、自分と異なる人々にもそれぞれに理があり得ることが分かる、行動的で、共感する心を持つ生涯学習者となるよう働きかけています。

<http://www.ibo.org/en/about-the-ib/mission/>

IB の学習者像

「全ての IB プログラムは、国際的な視野をもつ人間の育成を目指しています。人類に共通する人間らしさと地球を共に守る責任を認識し、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する人間を育てます。

IB の学習者として、次の目標に向かって努力します。

探究する人	生来の好奇心を育みます。調査と研究を行うために必要なスキルを獲得し、自主性を発揮しつつ学習します。主体的な学びを楽しみ、この学びの喜びを生涯を通して持ち続けます。
知識のある人	地域、そして世界的に重要な概念、考え、問題を探究します。そうする中で、特定の学問分野に偏らず幅広く、バランスのとれた深い知識を身につけ、その理解を育みます。
考える人	複雑な問題を認識し、それに取り組み、筋の通った倫理的な決定を行うために、批判的かつ創造的に考えるスキルを積極的に応用します。
コミュニケーションができる人	複数の言語、多様なコミュニケーションの方法を用いて、考えと情報を自信を持って創造的に理解し表現します。まわりの人と積極的かつ効果的に共同作業を行います。
信念をもつ人	正直さと誠意を持って、公正と公平、そして個人、集団、及び共同体の尊厳に対する尊敬の念を強く持って行動します。自分自身の行動と、その行動に伴う結果に対して責任を負います。
心を開く人	自己の文化と経歴を理解し、大切にすると同時に、まわりの個人と共同体の視点、価値観、伝統に対して心を開きます。常に多様な視点を探して評価し、その経験を糧に成長しようと努力します。
思いやりのある人	他の人たちが必要としていること、感じていることに対して思いやり、共感、そして尊重する気持ちを示します。他の人たちの生活と環境に良い影響を及ぼすために奉仕し、行動することを自分の責任とします。
挑戦する人	未知の状況や不確実な事態に対し、熟慮しつつ勇気を持って取り組み、新しい役割、考え、戦略を探る自立した精神を持ちます。自分の信念を守るために恐れることなく、明確な態度を示します。
バランスのとれた人	自己及び他者の幸福を達成するために、知性、身体、心のバランスをとることが重要であると理解します。
振り返りができる人	自己の学習と経験を深い洞察力をもって熟考します。個人の学習と成長を促すため、自分の長所と短所を評価し、理解することができます。



IBDP Requirement & Programme Model

ディプロマプログラム(DP)は、世界中の主要な大学への入学準備を進めるのに役立つだけでなく、思いやりを持ち、分析的に考えることができる生徒、そして、生涯を通して学習に励み、責任感ある良き社会の一員となることを促します。意欲的な生徒が、教科書に基づく学習に限定することなく、実践的な応用を取り入れた質の高い、且つ、グローバルな視点に基づくプログラムに挑戦することができるよう構成されています。



DPカリキュラムは、円形モデルによって表現されます。学習者像、つまり、プログラムが後押ししたり、発展させたりすることを目指す生徒の特色を中心に据えています。この学習者像の周囲を、教科間のつながりや、学校とより大きなコミュニティとのつながりを作るきっかけをカリキュラムに与えるような3つの中心的要素：知の理論 (TOK)、課題論文 (EE)、創造性・活動・奉仕 (CAS) が取り囲んでいます。そして、カリキュラムモデルの端に、生徒が履修する6つの教科群が存在します。

Diploma 資格のための条件

IB の Diploma を取得するためには次の(1)(2)の①～⑥を全て満たさなくてはなりません。

(1) 3つのコアのグループの取得条件①～③を全て満たします。

- ① TOK (Theory of Knowledge) の授業を2年間で100時間受講し、展示会を行い(内部評価(35%))エッセイ(3000字外部評価(65%))を書く。
- ② 教科の中から1つ選び、Extended Essay (課題論文(8000字)(外部評価))を書く。
- ③ CAS 活動を行い、CAS コーディネーターと記録を残す。

<EE (課題論文) × TOK (課題論文) の最終換算表>

		知の理論 (TOK)					
		非常に優れている	良い	十分なレベル	可	初歩的	未提出
課題論文 (EE) ↓		A	B	C	D	E	N
非常に優れている	A	3	3	2	2	不合格	不合格
良い	B	3	2	2	1	不合格	不合格
十分なレベル	C	2	2	1	0	不合格	不合格
可	D	2	1	0	0	不合格	不合格
初歩的	E	不合格	不合格	不合格	不合格	不合格	不合格
未提出	N	不合格	不合格	不合格	不合格	不合格	不合格

注意 1 : EE と TOK は2つの評価の交わる箇所が評価点になります。

(例) 「B+C」の組み合わせが2点の加点となります。

注意 2 : (例) 「A+E」の組み合わせが0点となり、不合格となります。

(2) 6つのグループから6つの教科をとり④～⑥を満たします。

- ④ 3つの **Higher Level** 教科をとる。 (240 時間 / 2年間 一つの教科につき)
- ⑤ 3つの **Standard Level** 教科をとる。 (160 時間 / 2年間 一つの教科につき)

注意 4 : 選択教科は自由ですが、どのグループからも1つの教科を選択する必要があります。但し、グループ6に関しては、芸術科目を選択せずに他のグループからもう一つ別の教科を選択することができます。(例) 美術を取らずに理科を2科目とる。

⑥ 評価点が次の条件 a～ h を満たす

- a. コアの評価点を含め、全体で24点以上とっていること
- b. TOK と EE の組み合わせで E や N の評価点がないこと
- c. 教科で1の評価点がないこと
- d. 2以下の評価点が2教科以上ないこと (SL または HL)
- e. 3以下の評価点が3教科以上ないこと (SL または HL) .
- f. HL の教科でトータル12点以上をとっていること (4つ HL をとっている人は3つの教科の高い評価点で計算する)
- g. SL の教科で9点以上とっていること (2つのみ SL の場合は、トータルで5点以上)
- h. Final Award Committee から学術不正の罰則を受けていないこと

沖尚ディプロマ・プログラム 2020-2021

教科 グループ	教科 Subject	Teachers
Group 1 言語と文学	日本語 A: 文学 SL 日本語 A: 文学 HL	
Group 2 言語習得	英語 B SL 英語 B HL	
Group 3 個人と社会	歴史 SL 歴史 HL	
Group 4 実験と科学	生物 SL 生物 HL 化学 SL 化学 HL	
Group 5 数学	数学 SL 数学 HL	
Group 6 芸術	美術 SL 美術 HL	
TOK 知の理論	知の理論	
CAS 芸術	Creativity (創造性) Activity (活動) Service (奉仕)	
EE 課題論文	教科の中から1つ選ぶ	各教科担当

学問的誠実性 Academic Honesty

IBにおける学問的誠実性とは、「個人の誠実さ、学習、評価の優れた実践を推進するための一定の価値観とスキルである」とみなされ、「周囲の圧力、文化、保護者の期待、手本の示し方、教えられたスキルなど、様々な要因によって影響され、形成されるものである」と言われています。IBでは、課題や試験などで「本当にその生徒自身が取り組んだもの」であるかを厳重に確認して **Diploma** を授与します。そのために沖尚 IB プログラムでは、生徒が学問的誠実性に従って学問に励んでいるか厳しく審査します。審査基準に満たない場合には **IB の Diploma** が取得できない場合もあります。下記の行為は学問的誠実性に欠けるものとみなされます。

1. 知的財産権（特許、登録意匠、登録商標、人格権、著作権など）が尊重されない行為。
音楽の違法ダウンロードなど
2. 「本当に生徒自身が取り組んだもの」を明らかにするため、成果物（課題、エッセイ、実験レポートなど）を提出するときには、成果物の中で使用されている全ての出典を明示しない行為
3. 特に、「芸術」の科目において、他の作品や発送から影響を受け、使用する場合があるが、その原典を明示しない行為
4. 他人の考えや成果物を自分のものとして使用する「剽窃」(plagiarism) 行為。
 - ① 不適切な引用やパラフレーズ
 - ② 参考文献目録への出典元の未記載及び引用箇所の未明示

<不正行為>

5. ウェブ、図書、雑誌、**CD-ROM**、**DVD**、電子メールなどから得た文(章)、地図、写真、イラスト、データ、グラフなどの出典を明示せずに転記する行為
6. 生徒間同士の「共謀」による成果物の提出（2名以上でほぼ変わりのない内容や文(章)など）。グループ4では「協働」で行う作業もあるが、データの記録や処理などが、評価対象となる場合には、個別に行うことになっているので、同グループで同記録や処理が全く同じであるばあいの行為は、不正とみなされることもある。
7. **IB** 取得資格取得の必修要件に対して同一の学習成果物を提出する行為。例えば、内部評価で提出した成果物を課題論文でほぼ同内容で提出する行為も不正とみなされます。
8. 複数の言語でリサーチし、翻訳したものを出典を明らかにせず使用する行為。
9. 筆記試験中の不正行為（カンニング、無許可の用具持ち込み、試験妨害行為、情報交換監督の指示無視など）

上記の詳細は、各教科担当から説明があります。また、試験中の不正行為についての詳細は、試験の初日から2週間前までに行われる、受験についての注意事項説明の際にお伝えします。

Group 1 : 日本語 A: 文学

I. 教科書、教材:

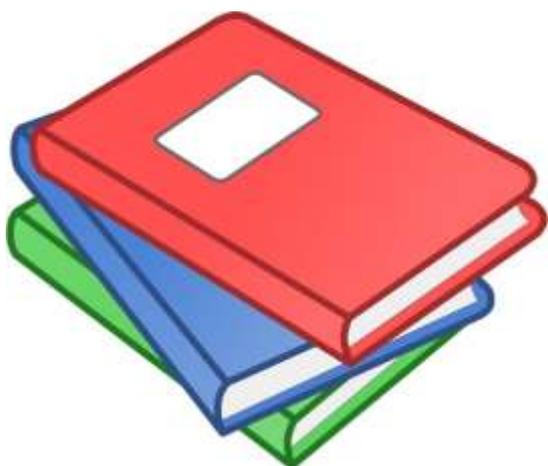
- (1) 日本の高校卒業資格をとるための教科書
「国語総合」
- (2) IBDP 取得のための教材 (予定)
 - Part 1 ① 「変身」 フランツ・カフカ SL/HL
 - ② 「マクベス」 ウィリアム・シェイクスピア SL/HL
 - ☆ 「異邦人」 アルベール・カミュ HL
 - Part 2 ① 「在りし日の歌」 中原中也 SL/HL
 - ② 「羅生門、鼻、藪の中」 芥川龍之介 SL/HL
 - ☆ 随筆作品 HL
 - Part 3 ① 「人間失格」 太宰治 SL/HL
 - ② 「銀河鉄道の夜」 宮沢賢治 SL/HL
 - ③ 「潮騒」 三島由紀夫 SL/HL
 - ☆ 「沈黙」 遠藤周作 HL
 - Part 4 ① 「重力ピエロ」 伊坂幸太郎 SL/HL
 - ② 「蠅の王」 ウィリアム・ゴールディング SL/HL
 - ③ 「鉄道員」 浅田次郎 SL/HL

II. IB 評価: (例)First Examination 2013 [Standard Level](#)

内部評価	30%	外部評価(3 時間)	70%
個人口述コメントリーとディスカッション (20 分) Part 2 で学習した作品に関する問いに口頭で答え (8 分)、質疑 (2 分) を行う。(30 点)	15%	試験問題 1 : 設問付文学分析 (1.5 時間) 未学習の作品から抜粋された 2 つの文章 (1 つは韻文、1 つは散文) のうち 1 つを選んで 2 つの設問に沿って分析を書く。作品の理解と解釈、文体に関する設問が提示されます。(20 点)	20%
個人口述プレゼンテーション (10~15 分) part4 で学習した作品 (1 つあるいは複数) に関して個人的にトピックを設定してプレゼンテーションを行う。(30 点)	15%	試験問題 2 : 小論文 (1.5 時間) 文学的表現技法の考察に関する 3 つの設問が出題され、そのうちの 1 つを選んで解答する。 Part3 で学んだ 3 作の小説の中の少なくとも 2 作品に関して、比較対比しながら論述する力が求められる。(25 点)	25%
		記述課題 Part 1 で学んだ翻訳作品に関して、ディスカッションの後に「振り返りの記述」(600~800 字)、教師のサポートのもとで「小論文」(2400~3000 字)を仕上げる。(25 点)	25%

Ⅱ. 評価: (例) First Examination 2013 Higher Level

内部評価	30%	外部評価(4 時間)	70%
<p>個人口述コメントリーとディスカッション (20 分)</p> <p>Part 2 で学習した詩 (あるいは抜粋) に関する問いに口頭で答え (8 分)、質疑 (2 分) を行い、引き続き他ジャンルの 1 作品についてディスカッション (10 分) を行う。(30 点)</p>	15%	<p>試験問題 1 : 文学論評 (2 時間)</p> <p>未学習の作品から抜粋された文章 (1 つは韻文、1 つは散文) のうち 1 つを選んで論評 (コメントリー) を書く。作品の内容・技法・文体・テーマ・言語表現などについての探究力が求められる。(20 点)</p>	20%
<p>個人口述プレゼンテーション (10~15 分)</p> <p>part4 で学習した作品 (1 つあるいは複数) に関して個人的にトピックを設定してプレゼンテーションを行う。(30 点)</p>	15%	<p>試験問題 2 : 小論文 (2 時間)</p> <p>文学的表現技法の考察に関する 3 つの設問が出題され、そのうちの 1 つを選んで解答する。Part3 で学んだ 4 作の小説の中の少なくとも 2 作品に関して、比較対比しながら論述する力が求められる。(25 点)</p>	25%
		<p>記述課題</p> <p>Part 1 で学んだ翻訳作品に関して、ディスカッションの後に「振り返りの記述」(600~800 字)、教師のサポートのもとで「小論文」(2400~3000 字) を仕上げる。(25 点)</p>	25%



Group 2: Language Acquisition, English B

I .Text Book:

(1) Text English B, Higher Level

Text : 「English B for the IB Diploma」 (Cambridge University Press)

Literary Works : 「The Giver」 (HMH Books)

「Paper Towns」 (Speak)

II IB evaluation: First Examination 2020 **Standard Level**

Internal Assessment	25%	External Assessment (3hours+)	75%
Individual oral (15 minutes) A conversation with the teacher, based on a visual stimulus, followed by discussion based on an additional theme. (30 marks)	25%	Paper 1 (1 hour 15 minutes) Productive skills—writing (30 marks) One writing task of 250–400 words from a choice of three, each from a different theme, choosing a text type from among those listed in the examination	25%
		Paper 2 (2 hours) Receptive skills—separate sections for listening and reading (65 marks) Listening comprehension (45 minutes) (25 marks) Reading comprehension (1 hour) (40 marks) Comprehension exercises on three audio passages and three written texts, drawn from all five themes	50%

IB evaluation: First Examination 2020 **Higher Level**

Internal Assessment	25%	External Assessment (3hours+)	75%
Individual oral (15 minutes) A conversation with the teacher, based on a stimulus from the literary works, followed by discussion based on an additional theme. (30 marks)	25%	Paper 1 (1 hour 30 minutes) Productive skills—writing (30 marks) One writing task of 450–600 words from a choice of three, each from a different theme, choosing a text type from among those listed in the examination	25%
		Paper 2 (2 hours) Receptive skills—separate sections for listening and reading (65 marks) Listening comprehension (1 hour) (25 marks) Reading comprehension (1 hour) (40 marks) Comprehension exercises on three audio passages and three written texts, drawn from all five themes	50%

There are six assessment objectives for the language B course. Students will be assessed on their ability to:

- 1. communicate clearly and effectively in a range of situations, demonstrating linguistic competence and intercultural understanding**
- 2. use language appropriate to a range of interpersonal and/or cultural contexts**
- 3. understand and use language to express and respond to a range of ideas with accuracy and fluency**
- 4. organize ideas on a range of topics, in a clear, coherent and convincing manner**
- 5. understand, analyse and respond to a range of written and spoken texts**
- 6. understand and use works of literature written in the target language of study (HL only).**



Group3:個人と社会 歴史 HISTORY

I. 学習内容

①世界規模の戦争への動き < S L ・ H L >

THE MOVE TO GLOBAL WAR

東アジアにおける日本の対外膨張／イタリア・ドイツの対外膨張

②20世紀の戦争の原因と結果 < S L ・ H L >

Causes and Effects of 20th-century wars

第一次世界大戦 1914-18／アジア・太平洋戦争 1941-45／日露戦争 1904-05

スペイン内戦 1936-39／国共内戦 1927-37 & 1945-49

③独裁主義的国家・独裁者 < S L ・ H L >

Authoritarian States(20th Century)

ドイツーヒトラー／中国ー毛沢東／（ソ連ースターリン）

④H L 選択項目 2 : アジア・オセアニアの歴史 < H L >

8. 東アジア初期の近代化と帝国の衰退（1860ー1912年）

同治中興と洋務運動／日清戦争敗北の影響・戊戌の変法／義和団事件・清朝末期の改革
孫文と辛亥革命の原因・失敗の理由／明治維新・大日本帝国憲法／明治期の社会文化経済
日本の軍事的増強・日清・日露戦争の勝利／朝鮮の開国・甲午農民戦争・日本の韓国併合

11. 日本（1912ー1990年）

第一次世界大戦と戦後会議の影響：パリ講和条約／ワシントン条約

大正デモクラシー：自由主義的価値観の発展と二大政党制の出現

軍国主義および過激なナショナリズムとその影響／政治クーデターと暗殺

満州事変（1931年）と中国侵略（1937年）／欧米諸国との関係への影響

日独伊三国同盟／アメリカ合衆国の禁輸措置

日本と太平洋戦争：パールハーバー（真珠湾）奇襲の決定／初期段階の成功／敗北の理由

アメリカ合衆国による占領と変化：社会的・政治的・経済的变化／「逆コース」

日本の「経済の奇跡」（高度経済成長）の理由／グローバル化による社会面・文化面・経済面
の影響

12. 中国と朝鮮（1910ー1950年）

中国のナショナル・アイデンティティの形成：袁世凱／孫文／対華二十一カ条要求

新文化運動・五四運動／軍閥主義の影響

中国国民党の統治：中国国民党の統率力とイデオロギー／蒋介石／「南京十年（1927-37）」
の間の国内政策の成功と失敗

中国における共産主義台頭の政治的・軍事的・社会的原因（1936年まで）第一次国共合作第二
次国共合作／上海クーデター（1927年）／延安／江西ソビエト（1931-34年）／長征（1934 -
35年）／毛沢東による指導

日中戦争の政治的・軍事的・社会的影響（1937ー45年）／国共内戦（1946-49年）と中国共産党
の勝利の理由：政治的・経済的・軍事的要因

日本による朝鮮支配の影響：韓国併合（1910年）の社会的・政治的・経済的影響／日中戦争の

朝鮮への影響：日本による強制労働と徴兵／慰安婦／朝鮮半島の 38 度線分割（1945 年）
 台湾と中華民国：蒋介石による統治の成立・戒嚴令（1949 年）／白色テロ（1950 年）
 台湾独立運動のはじまり

II. 教科書、教材

- (1) 日本の高校卒業資格を取るための教科書
 『世界史 B』（実教出版）
- (2) IBDP 取得のためのテキスト・ワークブック
 <SL・HL 共通>
 テキスト（Hodder Education）
 Andy Dailey *The move to global war*
 Andy Dailey / Sarah Webb *Causes and effects of 20th-century wars*
 Michael Lynch *Authoritarian states*
 ワークブック（Hodder Education）
 Russell Quinlan *The move to global war Study and Revision Guide*
 Kate Harker / Nicholas Verrill *Causes and effects of 20th-century wars Study and Revision Guide*
 Paul Grace *Authoritarian States Study and Revision Guide*
- (3) 配布・参考資料 → 授業において適宜提示

III. IB 評価: First Examination 2020 Standard Level

内部評価	25%	外部評価(3 時間)	75%
歴史研究 (historical investigation) 25 点 約 20 時間配当 論文の作成 (4400 字) 1. 資料の説明と評価 (0~6) 2. 研究 (0~15) 3. 考察 (0~4) 参考文献目録 (適用外)	25%	試験問題 1 (1 時間) 24 点 設問 4 つを小論文形式で解答 (1) 歴史資料の理解度 (2) 2 つの歴史資料の比較・対比による分析 (3) 2 つの資料に関して出典、目的、価値 限界の観点から評価 (4) 背景知識と歴史資料に対する評価	30%
評価目標 1. 知識と理解 評価目標 2. 応用と解釈 評価目標 3. 知識の統合と評価 評価目標 4. 歴史学のスキルの活用		試験問題 2 (1 時間 30 分) 30 点 設問 2 つに対して、小論文形式で解答 評価目標 1. 知識と理解 評価目標 2. 応用と解釈 評価目標 3. 知識の統合と評価 評価目標 4. 歴史学のスキルの活用	45%

IV. ASSESSMENT: First Examination 2020 **Higher Level**

Internal Assessment	20%	External Assessment(3 hours)	80%
歴史研究 (historical investigation) 25 点 約 20 時間配当 歴史研究 (historical investigation) 25 点 約 20 時間配当 論文の作成 (4400 字) 1. 資料の説明と評価 (0~6) 2. 研究 (0~15) 3. 考察 (0~4) 参考文献目録 (適用外) 評価目標 1. 知識と理解 評価目標 2. 応用と解釈 評価目標 3. 知識の統合と評価 評価目標 4. 歴史学のスキルの活用	20%	試験問題 1 (1 時間) 24 点 設問 2 つを小論文形式で解答 (1) 歴史資料の理解度 (2) 2 つの歴史資料の比較・対比による分析 (3) 2 つの資料に関して出典、目的、価値、限界の観点から評価 (4) 背景知識と歴史資料に対する評価	20%
		試験問題 2 (1 時間 30 分) 30 点 設問 2 つを小論文形式で解答 IBHISTORY の「評価目標」について正答 評価目標 1. 知識と理解 評価目標 2. 応用と解釈 評価目標 3. 知識の統合と評価 評価目標 4. 歴史学のスキルの活用	25%
		試験問題 3 (2 時間 30 分) 45 点 設問 3 つを小論文形式で解答 IBHISTORY の「評価目標」について正答 評価目標 1. 知識と理解 評価目標 2. 応用と解釈 評価目標 3. 知識の統合と評価 評価目標 4. 歴史学のスキルの活用	35%

Group 4 :自然科学: 化学 SL

I.教科書、教材:

- (1) 日本の高校卒業資格をとるための教科書, 副教材
教科書: 該当なし
副教材: 該当なし
- (2) IBDP 取得のための教材
教科書: Sergey 「CHEMISTRY COURSE COMPANION 2014 EDITION」
(COXFORD) ISBN 978-0198392125
副教材: 「化学基礎」(数研出版)
「化学」(数研出版)
「スクエア最新図説化学 六訂版」(第一学習社)
参考書: マクマリー「一般化学 上・下」(東京化学同人)
「化学 基本の考え方を学ぶ 上・下」(東京化学同人)

II. IB 評価: 2016 年度試験より適用 Standard Level

内部評価	20%	外部評価(3 時間)	80%
<p>個人研究 (10 時間) 評価目標 1,2,3,4 に対応する。 生徒は, 1つの科学的研究に約 10 時間をかけて取り組み, およそ 6~12 ページのレポートにまとめ, 「主体的な取り組み」(8%), 「探究」(25%), 「分析」(25%), 「評価」(25%), 「コミュニケーション」(17%)の 5つの評価基準を用いて個人研究の最終レポートの評価を行う。</p>	20%	<p>試験問題 1 (45 分) 「SL・HL 共通項目」に関する 30 問の多肢選択問題。そのうち約 15 問は HL と共通問題。 評価目標 1, 2, 3 についての到達度が測られる。 電卓の使用は認められない。 周期表が配布される。 不正解の解答は減点されない。 満点は 30 点。</p>	20%
<p>グループ 4 プロジェクト(10 時間) 生徒は, 共同研究を通じて, 共通のトピックまたは問題の分析に取り組む。 「計画」2 時間、「行動」6 時間、「評価」2 時間の 3 段階分けて, 実際の検察実験を伴うものでも, 純粋に理論的な要素を取り上げたものでも構わない。 例) 実験室での研究・フィールドワーク。別の学校と協働して比較研究。化学学術雑誌、環境保護団体、科学技術関連企業や政府の報告書などの他のソースからデータを収集、操作、分析</p>	—	<p>試験問題 2 (1 時間 15 分) 「SL・HL 共通項目」に関する短答式問題と論述式問題。 評価目標 1, 2, 3 についての到達度が測られる。 電卓の使用は認められる。 IB 資料「化学資料集」が配布される。 満点は 50 点。</p>	40%

<p>する。学校が組織する長期プロジェクトに貢献する</p>			
		<p>試験問題 3 (1 時間) 「SL・HL 共通項目」及び「SL 選択項目」に関する問題。 セクション A：データに基づく問題 1 問と実験スキルに関する複数の短答式問題。 セクション B：1 つの選択項目からの短答式問題と論述式問題（沖尚高校では選択項目 D の医薬品化学を選択する）。 評価目標 1, 2, 3 についての到達度が測られる。 電卓の使用は認められる。 IB 資料「化学資料集」が配布される。 満点は 35 点。</p>	<p>20%</p>

評価目標

1. 以下の知識と理解を示すことができる
事実、概念、用語。方法論と手法。科学情報の伝達。
2. 以下を応用することができる
事実、概念、用語。方法論と手法。科学情報の伝達の方法。
3. 以下を公式化、分析、評価することができる
仮説、研究課題と予測。方法論と技法。一次データと二次データ。科学的説明。
4. 洞察力があり倫理に適った研究を行うのに必要とされる適切な研究スキル、実験スキル、人間性の側面に関連したパーソナルスキルを示すことができる。



Group 4 :自然科学: 化学 HL

I. 教科書、教材:

- (1) 日本の高校卒業資格をとるための教科書, 副教材
教科書: 該当なし
副教材: 該当なし
- (2) IBDP 取得のための教材
教科書: Sergey 「CHEMISTRY COURSE COMPANION 2014 EDITION」
(COXFORD) ISBN 978-0198392125
副教材: 「化学基礎」(数研出版)
「化学」(数研出版)
「スクエア最新図説化学 六訂版」(第一学習社)
参考書: マクマリー「一般化学 上・下」(東京化学同人)
「化学 基本の考え方を学ぶ 上・下」(東京化学同人)

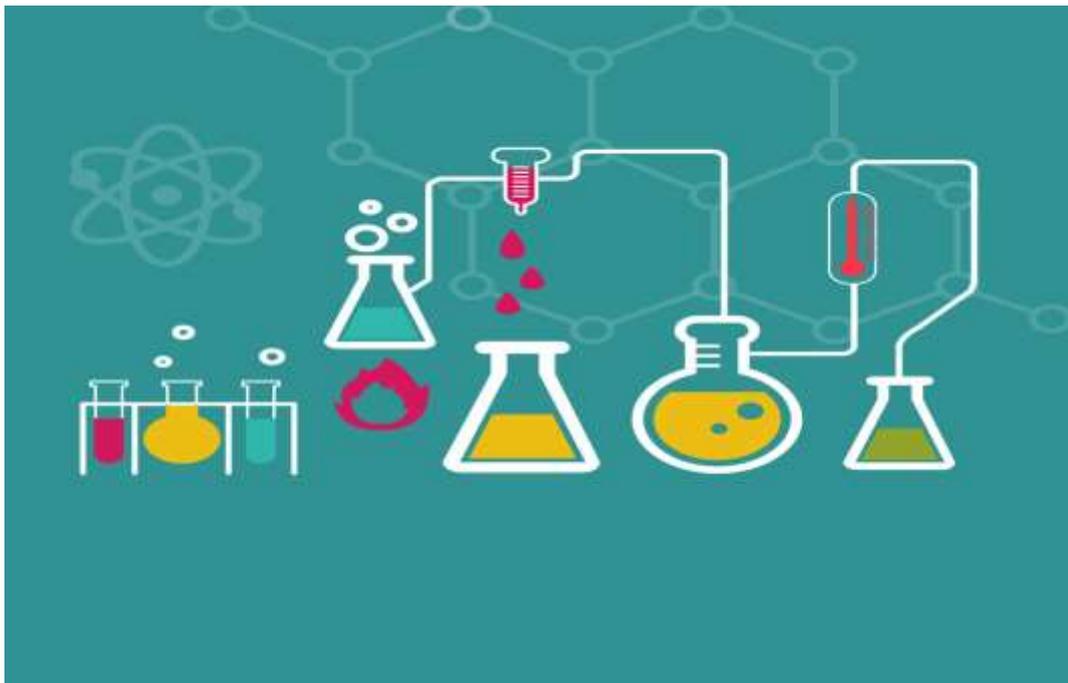
II. IB 評価: 2016 年度試験より適用 Higher Level

内部評価	20%	外部評価(4 時間 30 分)	80%
<p>個人研究 (10 時間)</p> <p>評価目標 1, 2, 3, 4 に対応する。</p> <p>生徒は, 1 つの科学的研究に約 10 時間をかけて取り組み, およそ 6~12 ページのレポートにまとめ, 「主体的な取り組み」(8%), 「探究」(25%), 「分析」(25%), 「評価」(25%), 「コミュニケーション」(17%) の 5 つの評価基準を用いて個人研究の最終レポートの評価を行う。</p>	20%	<p>試験問題 1 (1 時間)</p> <p>「SL・HL 共通項目」および「HL 発展項目」に関する 40 問の多肢選択問題。そのうち約 15 問は SL と共通問題。</p> <p>評価目標 1, 2, 3 についての到達度が測られる。</p> <p>電卓の使用は認められない。</p> <p>周期表が配布される。</p> <p>不正解の解答は減点されない。</p> <p>満点は 40 点。</p>	20%
<p>グループ 4 プロジェクト (10 時間)</p> <p>生徒は, 共同研究を通じて, 共通のトピックまたは問題の分析に取り組む。</p> <p>「計画」2 時間、「行動」6 時間、「評価」2 時間の 3 段階分けて, 実際の検察実験を伴うものでも, 純粋に理論的な要素を取り上げたものでも構わない。</p> <p>例)</p> <p>実験室での研究・フィールドワーク。別の学校と協働して比較研究。化学学術雑誌、環境保護団体、科学技術関連企業や政府の報告書などの他のソースからデータを収集、操作、分析する。学校が組織する長期プロジェクトに貢献する</p>	—	<p>試験問題 2 (2 時間 15 分)</p> <p>「SL・HL 共通項目」および「HL 発展項目」についての短答式問題と論述式問題。</p> <p>評価目標 1, 2, 3 についての到達度が測られる。</p> <p>電卓の使用は認められる。</p> <p>IB 資料「化学資料集」が配布される。</p> <p>満点は 95 点。</p>	36%

	<p>試験問題 3 (1 時間 15 分)</p> <p>「SL・HL 共通項目」及び「HL 発展項目」に関する問題。</p> <p>セクション A: データに基づく問題 1 問と実験スキルに関する複数の短答式問題。</p> <p>セクション B: 1 つの選択項目からの短答式問題と論述式問題 (沖尚高校では選択項目 D の医薬品化学を選択する)。</p> <p>評価目標 1, 2, 3 についての到達度が測られる。</p> <p>電卓の使用は認められる。</p> <p>IB 資料「化学資料集」が配布される。</p> <p>満点は 45 点。</p>	24%
--	--	-----

評価目標

1. 以下の知識と理解を示すことができる
事実、概念、用語。方法論と手法。科学情報の伝達。
2. 以下を応用することができる
事実、概念、用語。方法論と手法。科学情報の伝達の方法。
3. 以下を公式化、分析、評価することができる
仮説、研究課題と予測。方法論と技法。一次データと二次データ。科学的説明。
4. 洞察力があり倫理に適った研究を行うのに必要とされる適切な研究スキル、実験スキル、人間性の側面に関連したパーソナルスキルを示すことができる。



Group 4 :自然科学: 生物 SL

I.教科書, 教材:

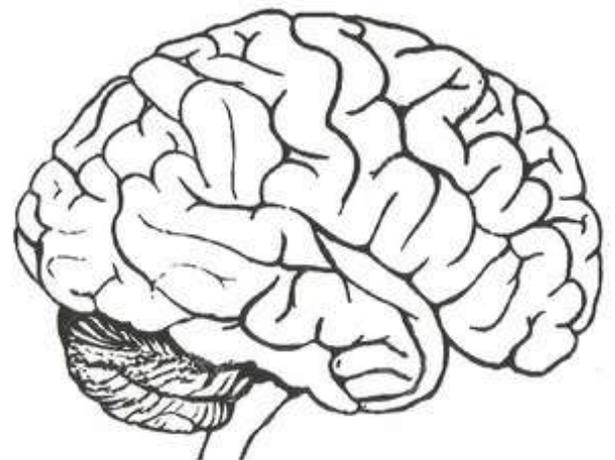
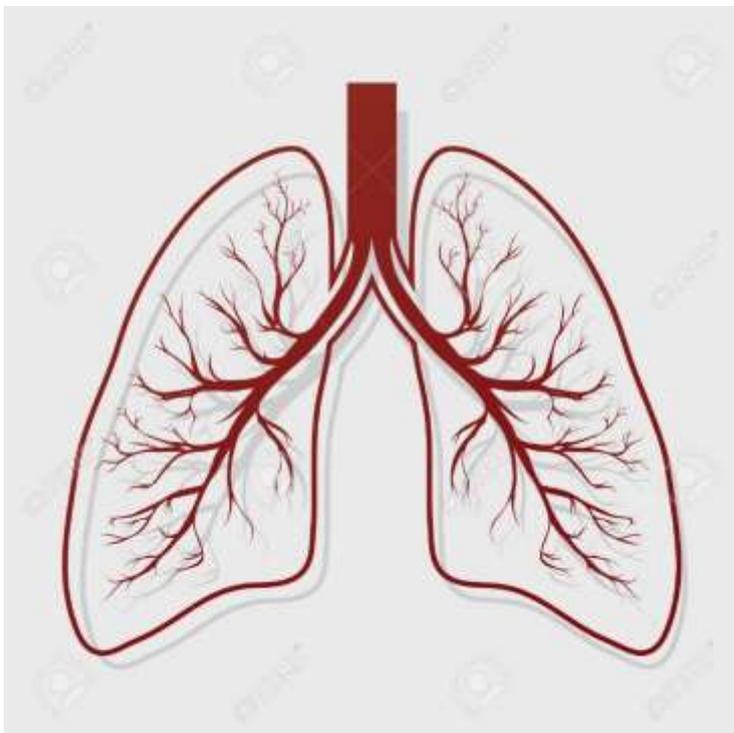
- (1) 日本の高校卒業資格をとるための教科書, 副教材 (高校1年次で購入済)
教科書:「生物基礎」(第一学習社)
副教材:「スクエア最新図説 neo 八訂版」(第一学習社)
 - (2) IBDP 取得のための教材
後藤太一郎 監訳「ワークブックで学ぶ生物学の基礎 第三版」(オーム社)
後藤太一郎 監訳「Skills in Biology ワークブックで学ぶ生物学実験の基礎」
(オーム社)
- B. Walpole 「Biology for the IB Diploma 2nd ed.」(Cambridge Univ. Press)

II. IB 評価: 2016 年度試験より適用 Standard Level

内部評価	20%	外部評価(3 時間)	80%
個人研究 (10 時間) 評価目標 1～4 に対応した評価が行われる。生徒は、1つの科学研究に約 10 時間をかけて取り組み、およそ 6～12 ページのレポートにまとめ、「主体的な取り組み」(8%),「探究」(25%),「分析」(25%),「評価」(25%),「コミュニケーション」(17%)の5つの観点から評価されます。カッコ内は評価基準の内訳を示します。長すぎるレポートは「コミュニケーション」の部分で減点されます。	20%	試験問題 1 (45 分) コアトピックに関する多肢選択問題。電卓は使用できない。問題は 30 問出題され、満点は 30 点。	20%
グループ4プロジェクト(10時間) 生徒は、共同研究を通じて、他の生徒と共通のトピック・問題の分析に取り組み、個々人がレポートを提出します。成果よりも活動姿勢が重要視されます。点数化はされません。	—	試験問題 2 (1 時間 15 分) データに基づいた短答式問題と論述式問題の混合。論述式問題では 2 問のうち 1 つを選択して解答する。電卓の使用が認められています。満点は 50 点。	40%
		試験問題 3 (1 時間) セクション A, B の二部で構成されています。セクション A では、コアトピックに関する初見のデータを用いて、実験技術・手法、分析と評価について解答。セクション B では、1つの選択項目(沖縄尚学では「生態学と保全」を選択)からの短答式問題と論述式問題に解答。電卓の使用が認められています。満点は 35 点。	20%

評価目標

1. 以下の知識と理解を示すことができる
事実、概念、用語。方法論と手法。科学情報の伝達。
2. 以下を応用することができる
事実、概念、用語。方法論と手法。科学情報の伝達の方法。
3. 以下を公式化、分析、評価することができる
仮説、研究課題と予測。方法論と技法。一次データと二次データ。科学的説明。
4. 洞察力があり倫理に適った研究を行うのに必要とされる適切な研究スキル、実験スキル、人間性の側面に
関連したパーソナルスキルを示すことができる。



Group 4 :自然科学: 生物 HL

I.教科書, 教材:

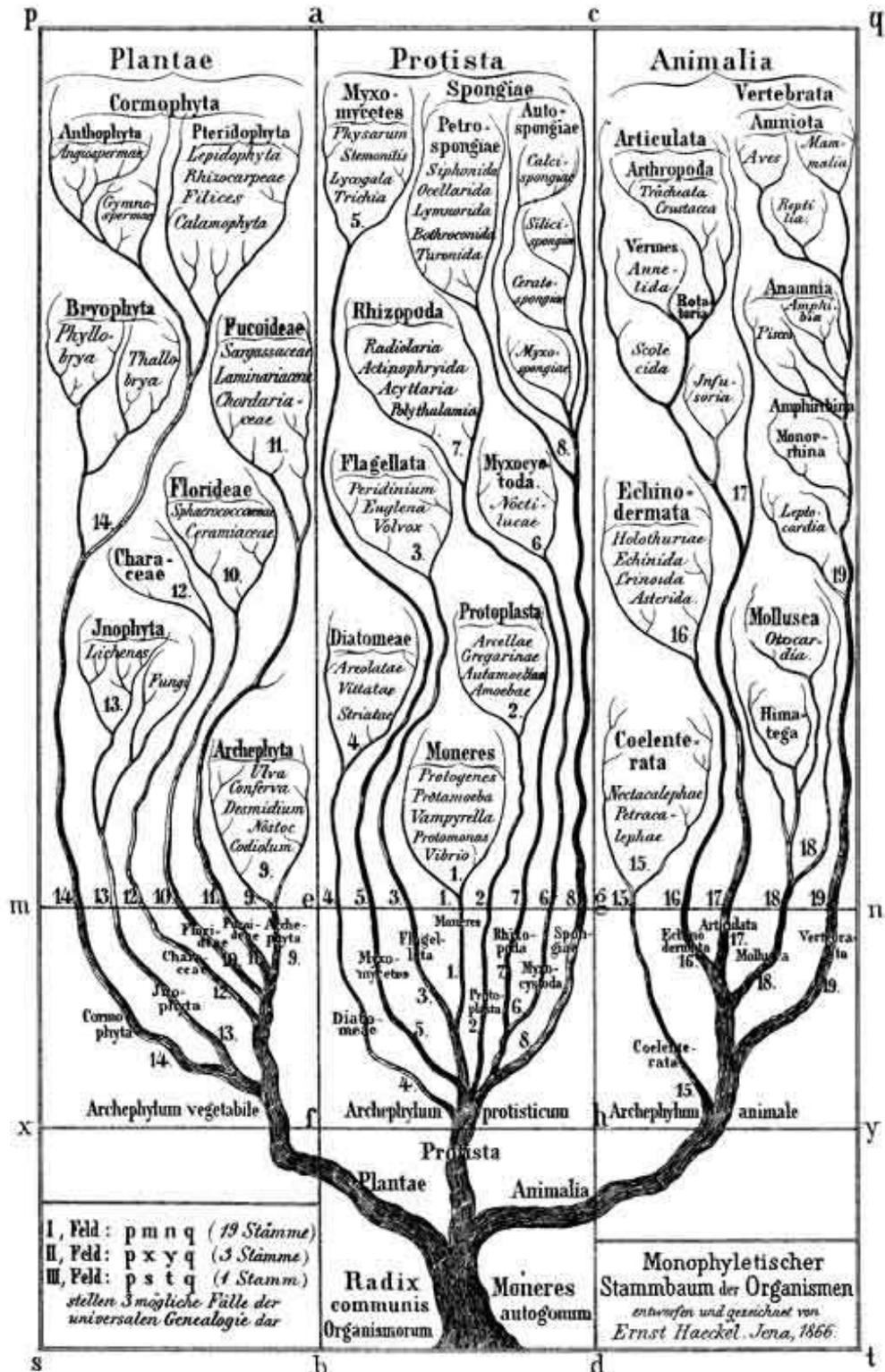
- (1) 日本の高校卒業資格をとるための教科書, 副教材 (高校1年次で購入済)
教科書:「生物基礎」(第一学習社)
副教材:「スクエア最新図説 neo 八訂版」(第一学習社)
 - (2) IBDP 取得のための教材
後藤太一郎 監訳「ワークブックで学ぶ生物学の基礎 第三版」(オーム社)
後藤太一郎 監訳「Skills in Biology ワークブックで学ぶ生物学実験の基礎」
(オーム社)
- B. Walpole 「Biology for the IB Diploma 2nd ed.」(Cambridge Univ. Press)

II. IB 評価: 2016 年度試験より適用 Higher Level

内部評価	20%	外部評価(3 時間)	80%
<p>個人研究 (10 時間)</p> <p>評価目標 1～4 に対応した評価が行われる。生徒は、1つの科学研究に約 10 時間をかけて取り組み、およそ 6～12 ページのレポートにまとめ、「主体的な取り組み」(8%),「探究」(25%),「分析」(25%),「評価」(25%),「コミュニケーション」(17%)の5つの観点から評価されます。カッコ内は評価基準の内訳を示します。長すぎるレポートは「コミュニケーション」の部分で減点されます。</p>	20%	<p>試験問題 1 (60 分)</p> <p>コアトピックに関する多肢選択問題。電卓は使用できない。問題は 45 問出題され、満点は 45 点。</p>	20%
<p>グループ 4 プロジェクト(10 時間)</p> <p>生徒は、共同研究を通じて、他の生徒と共通のトピック・問題の分析に取り組み、個々人がレポートを提出します。成果よりも活動姿勢が重要視されます。点数化はされません。</p>	—	<p>試験問題 2 (2 時間 15 分)</p> <p>データに基づいた短答式問題と論述式問題の混合。論述式問題では 2 問のうち 1つを選択して解答する。電卓の使用が認められています。満点は 72 点。</p>	36%
		<p>試験問題 3 (1 時間 15 分)</p> <p>セクション A, B の二部で構成されています。セクション A では、コアトピックに関する初見のデータを用いて、実験技術・手法、分析と評価について解答。セクション B では、1つの選択項目(沖縄尚学では「生態学と保全」を選択)からの短答式問題と論述式問題に解答。電卓の使用が認められています。満点は 45 点。</p>	24%

評価目標

- 以下の知識と理解を示すことができる
事実、概念、用語。方法論と手法。科学情報の伝達。
- 以下を応用することができる
事実、概念、用語。方法論と手法。科学情報の伝達の方法。
- 以下を公式化、分析、評価することができる
仮説、研究課題と予測。方法論と技法。一次データと二次データ。科学的説明。
- 洞察力があり倫理に適った研究を行うのに必要とされる適切な研究スキル、実験スキル、人間性の側面に
関連したパーソナルスキルを示すことができる。



Group 5 数学

I.教科書、教材:

- (1) 日本の高校卒業資格をとるための教科書
「数学 I、II、III、A、B」東京書籍
- (2) IBDP 取得のための教材

共通 Mathematics Core Topics HL

Math SL *Mathematics Analysis and Approaches SL* by Haese Mathematics

Math HL *Mathematics Analysis and Approaches SL* by Haese Mathematics

Math SL and HL: both needs GDC: CASIO fx-CG-50-N

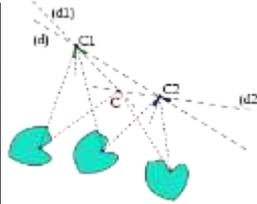
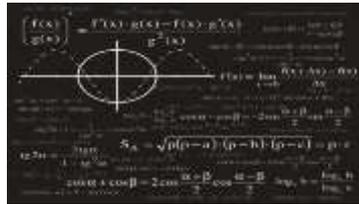
★主なトピック：

SL/HL 共通⇒代数学、関数と方程式、指数・対数関数、円関数、三角関数、ベクトル、確率と統計学、微分積分など

★帰納法、演繹法、背理法を使用し、数学的理論を展開し明確に伝えられることができるようになるのが、科目終了時に生徒の最終ゴールです。

II. IB 評価: (例)First Examination 2021 **Standard Level**

内部評価(10 hours)	20%	外部評価(3 hours)	80%
Personal Exploration (10 hours) Internal assessment in SL Math is an individual exploration. This is a piece of written work that involves investigating an area of mathematics. (6-12 pages Essay)	20%	External Paper 1 (1hour 30min) Section A: Short answers Section B: Extended quest Total 90 marks # NO GDC	40%
		External Paper 2 (1 hour and 30 min) Section A: Short answers Section B: Extended quest Total 90 marks # GDC required	40%



IB 評価 (例) First Examination 2021 **Higher Level**

内部評価(10 hours)	20%	外部評価(3 hours)	80%
<p>Personal Exploration (10 hours) Internal assessment in SL Math is an individual exploration. This is a piece of written work that involves investigating an area of mathematics. (6-12 pages Essay)</p>	20%	<p>External Paper 1 (2 hours) Section A: Short answer Section B: Extended quest Total 100 marks # NO GDC</p>	30%
I		<p>External Paper 2 (2 hours) Section A: Short answer Section B: Extended quest Total 100 marks # GDC required</p>	30%
		<p>External Paper 3 (1 hour) Paper 3 Mock Exam Papers coming In 2021 2 long problems 50 marks</p>	20%

How does it compare to Japanese mathematics?

Easy to set problem status

There is a problem to apply to the real world



Group 6: IB DP Visual Arts (視覚芸術) Standard Level / Higher Level

I 教科書 (Text Book)

(1) 高校美術 I (日本文教出版)

(2) IB DP VISUAL ARTS (OXFORD UNIVERSITY PRESS)

II IB DP Visual Arts 評価

Internal Assessment 内部評価 (40%)	External Assessment 外部評価 (60%)
<p>Exhibition 展示 (40%)</p> <p>作品発表で展示したのから完成作品を選び、評価のために提出する。選択した作品は、美術コース期間において生徒が達成した技法の証拠となり、ビジュアル・コミュニケーションにふさわしい素材、アイデアおよび実践の活用についての理解を示すものであるべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・400語(日本語の場合は800字)以内のキュレーター・ステートメントを提出する。 ・(HLは700語以内、日本語の場合は1400字) ・4~7作品(HLは8~11作品)を提出する。 ・選択した各作品についてキャプション(作品タイトル、表現技法、サイズおよび制作意図を記入したもの)を提出する。 ・自身の作品発表の様子全体を写した写真2枚を提出する。ここには発表作品以外のものが写っていない。 ・指定された空間における一連の作品の選び方、配置の仕方、また展示の仕方を正当化できているか。 ・展示からどのように作品と受け手の間の関係性が理解できるかについての振り返りをしているか。 	<p>Comparative Study 比較研究 (20%)</p> <p>様々な芸術家による様々な芸術作品を分析、比較する。批判的、文脈的な調査では、異なる文化的文脈から芸術作品、オブジェおよび人工製品を探究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10~15枚の画像ファイルを提出し、そこで少なくとも3作品について考察、比較する。 (そのうち2つは異なる芸術家によるものとする。) ・比較および分析のための作品は、大きく異なる文脈(地域、国家、文化等)から選ばなければならない。 ・使用した資料のリストを提出する。 ・HLの生徒は3~5枚の画像ファイルを提出し、そこで自身の作品と実践が考察した芸術および芸術家からどのような影響を受けたかを分析します。 ・選択した1つ以上の作品と自身の作品の制作過程と実践の間に見られる関連性を特定した上で、比較研究の結果と、この研究が生徒自身の芸術家としての成長にどのように影響したかを分析し評価する。
	<p>Process Portfolio プロセスポートフォリオ (40%)</p> <p>2年間のコースでの多様な美術活動で行った実験、探究、修正および改善の証拠となる資料を注意深く選択し、提出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な芸術作品の制作活動の継続的な実験、探究、修正および改善の証拠となる9~18枚(HLは13~25枚)の画像ファイルを提出する。提出される作品は、作品制作形式の表の異なる列から選んだ少なくとも2つ(HLは3つ)の作品形式をとらなければならない。

作品制作の形式

SLの生徒の場合、提出される作品は少なくとも2つの作品形式をとり、それぞれが下記の表の異なる列のものでなければなりません。HLの生徒の場合、提出される作品は少なくとも3つの作品形式で制作され、下記の作品制作形式の表の最低2つの列から選んだものでなければなりません。下記の例は、説明のために示したもので、限定的な意味をもつものではありません。

平面の形式	立体の形式	カメラやビデオ、電子機器、画像ファイルを用いた形式
<ul style="list-style-type: none"> ・デッサン：木炭、鉛筆、インクなど ・絵画：アクリル、油、水彩など ・版画：凸版、凹版、平板、シンコレなど ・グラフィック：イラスト、デザインなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・彫刻：セラミック、すでに見出された対象、木材、アッサンプラージュなど ・デザイン：ファッション、建築、船など ・特定地域のアート／過性のアート：ランドアート、インスタレーション、壁画など ・テキスタイル：繊維、機織り、織物など 	<ul style="list-style-type: none"> ・タイム・ベース・アートおよびシーケンシャル・アート：アニメーション、グラフィックノベル、絵コンテなど ・カメラを使った表現手段：静止画像、動画、モニタージュなど ・デジタル／画像：ベクター画像、ソフトウェア生成品など

美術ジャーナル

美術ジャーナルは、あらゆる点でコースの支えとなります。生徒は、多様な形式をとりうるジャーナルを活用し、表現

手段の実験、研究、振り返り、観察および感想を含む、作品制作の過程のあらゆる側面を記録します。

	文脈に沿った美術 芸術家と芸術家が作品を制作する理由	美術の方法 芸術作品の制作方法	美術のコミュニケーション 芸術の発表方法
理論的実践	<ul style="list-style-type: none"> ・研究ノート ・時系列 ・概念マップ ・マインドマップ ・引用文 ・リスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・注釈入り図表／作品例 ・ベン図による芸術作品、芸術家、様式の比較 ・作品の形式的特性又は作品概念に関する事項に焦点をあてた相対的重要度グラフ 	<ul style="list-style-type: none"> ・形式の分析 ・図表の分析 ・形式の解釈 ・注釈入りイメージ ・評価 ・批判的分析
作品制作の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデア、テーマ、作品概念に関する研究ノート ・マインドマップ ・概念マップ ・リスト ・スケッチ、デザイン ・注釈入り図表 ・サムネール 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現手段の実験 ・カラーパレット ・コンタクトシート ・コンピュータのスクリーンショット ・絵コンテ ・アクションプラン ・フローチャート ・スケッチ ・CAD(コンピュータ支援設計) ・進行及び過程の写真記録 ・素材見本／サンプル 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り ・評価 ・完成作品と進行中の作品、またはある作品と他の芸術家の作品の関係性を探求する図表 ・完成作品の注釈入り写真または図表
キュレーションの実践	<ul style="list-style-type: none"> ・展覧会のレビュー ・公開された展覧会レビューに対する批判的な感想 ・ベン図による異なる様式の展覧会または異なる様式の美術館／ギャラリーの比較 	<ul style="list-style-type: none"> ・場所の評価 ・計画 ・間取り図 ・配置計画 ・発表計画 ・振り返り ・評価 ・キュレーター・ステートメントの草稿 	<ul style="list-style-type: none"> ・ムードボード ・計画 ・間取り図 ・クラスでの批評会に対する感想

Group 6: The Arts, Visual Arts

I .Class Materials: Various sources, field trips, experience

II . IB evaluation: First Examination 2016 **Standard Level**

Internal Assessment	40%	External Assessment (3hours+)	60%
<p>Part 3: Exhibition</p> <p>Students at SL submit for assessment a selection of resolved artworks from their exhibition. The selected pieces should show evidence of their technical accomplishment during the visual arts course and an understanding of the use of materials, ideas and practices appropriate to visual communication.</p> <ul style="list-style-type: none"> • SL students submit a curatorial rationale that does not exceed 400 words. • SL students submit 4–7 artworks. • SL students submit exhibition text (stating the title, medium, size and intention) for each selected artwork. <p>SL students may submit two photographs of their overall exhibition. These exhibition photographs provide an understanding of the context of the exhibition and the size and scope of the works. While the photographs will not be used to assess individual artworks, they may give the moderator insight into how a candidate has considered the overall experience of the viewer in their exhibition.</p>	40%	<p>Part 1: Comparative study</p> <p>Students at SL analyse and compare different artworks by different artists. This independent critical and contextual investigation explores artworks, objects and artifacts from differing cultural contexts.</p> <ul style="list-style-type: none"> • SL students submit 10–15 screens which examine and compare at least three artworks, at least two of which should be by different artists. The work selected for comparison and analysis should come from contrasting contexts (local, national, international and/or intercultural). • SL students submit a list of sources used. 	20%
		<p>Part 2: Process portfolio</p> <p>Students at SL submit carefully selected materials which evidence their experimentation, exploration, manipulation and refinement of a variety of visual arts activities during the two-year course.</p> <ul style="list-style-type: none"> • SL students submit 9–18 screens which evidence their sustained experimentation, exploration, manipulation and refinement of a variety of art-making activities. For SL students the submitted work must be in at least two art-making forms, each from separate columns of the art-making forms table. 	40%

知の理論 (Theory of Knowledge (TOK))

I.教科書、教材:

IBDP 取得のための教材

教科書 (必須)

※新しい教科書については授業で購入を指示致します

参考書 (購入の義務はありません)

※未定

II. IB 評価: 2022 年度第 1 回試験より適用

内部評価	33% 1/3	外部評価	67% 2/3
<p>TOK 展示 (10 点)</p> <p>この評価課題では、私たちを取り巻く世界に TOK がどのように顕在しているかを深く考察する展示を行います。この評価課題は、TOK の教師が内部評価したうえで、コース終了時に IB による外部モデレーションを受けます。以下の要素を含める：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 選択した IA プロンプトを明確に示すタイトル ・ 3 つの事物の画像 ・ 3 つの事物それぞれについて、それが何なのか、また、実社会のどのような文脈においてみられるのかを特定したうえで、この展示に含めた理由と IA プロンプトとのつながりを説明したコメンタリー1900 字以内。 (英語は 950 語以内) 	33%	<p>TOK エッセイ (10 点)</p> <p>IBO が事前(締切の 6 か月前)に OCC に提示した 6 つの所定課題から各生徒が選択したテーマ一つについての TOK エッセイを提出します。エッセイのタイトルは TOK 教師との面談などを通じて各自で選びます。提出されたエッセイは IB の採点基準表に従って 10 点満点で外部審査員により評価されます。字数制限は日本語の場合は 3200 字以内 (英語では 1600 語以内) で、字数を明記することが生徒に義務付けられています。制限字数を上回った場合は 1 点減点されます。</p>	67%



課題論文 (Extended Essay (EE))

4 月頭 (11 年生)	<p>課題論文についての説明会</p> <p>※Academic Honesty 学問的誠実性について確認。</p> <p>課題：EE ガイドを読み、評価基準を共通理解。どの科目を選ぶかを定める。</p>
5 月 4 週目	<p>1. 指導教員の決定</p> <p>課題：トピックを選択し「EE Research Proposal 課題論文計画書」を提出する。</p> <p>2. 指導教官との初回の振り返りセッションを行う。(第一回)</p> <p>課題：初回の「計画および進捗についての振り返りフォーム (RPPF)」の記入。</p>
6 月	<p>課題論文研修</p> <p>課題：情報の収集の仕方、引用の仕方、参考文献の書き方、剽窃行為など</p> <p>暫定的に、Research Question 研究課題を設定</p>
7 月 2 週目	<p>指導教員との第 2 回目のミーティング</p> <p>1、指導教員とこれまでの振り返り</p> <p>①課題論文ガイドで評価基準の確認をする ②リサーチの方法のキーポイントを知る ③論文を書くために必要な資料の確認</p> <p>2、終了している項目</p> <p>①研究分野を向上させる ②読むべき本のリスト作成③タイトルを決定する。</p> <p>④次回のミーティングの目標を設定する ⑤基本的な概要作成</p>
7 月下旬～8 月 (夏季休暇)	<p>課題：リサーチの継続と論文の大まかな内容仕上げと概要の詳細を書く</p> <p>9 月の EE プレゼンに向けての準備</p>
9 月 2 週目	<p>研究課題の報告・発表 (プレゼン)</p> <p>課題：夏休み中行った内容を各自 5～10 分(予定) で発表</p> <p>論文の目標、資料、データ、懸念事項、参考文献について述べる</p>
12 月 3 週目	<p>指導教員との中間の振り返りセッション(3 回目)</p> <p>課題：中間の「RPPF」の記入。</p>
3 月(春休み前)	<p>草稿を指導官に提出 (First Draft)</p>
4 月(12 年生) 2 週目	<p>指導教員より草稿へのコメントをもらい、ディスカッションを行う。(4 回目)</p> <p>課題：指導教官からのコメントを基に、推敲を重ね、最終稿の執筆を行う。</p>
6 月	<p>最終稿の提出 (Final Draft)</p>
7 月	<p>口頭試問 (Viva voice)</p> <p>課題：最終の「計画および進捗についての振り返りフォーム (RPPF)」に最終の総括コメントを記入。※署名と日付を入れてから、指導教官に提出。</p>

- ・課題論文のスケジュールは一般的な日程です。必要な時間の確保については、指導教諭と生徒の話合いのもとに決定されます。
- ・指導教諭との話し合いの時間は 20 分～30 分です。
- ・特定のプレゼンテーションとインタビューは指導教諭との話し合いで決まります。また、課題論文の最終提出も話し合いのもと決定されます。

Creativity, Activity and Service (CAS)

Subject: Creativity, Activity, Service (CAS)

概要: 「創造性・活動・奉仕」(CAS)は、DPの「コア」を構成する3つの必修要件の1つです。CASは、レベルの高い学問的なプログラムを補完するものであり、自己決定し、他者と共に活動し、目標を達成し、その達成感を得る機会をもたらします。CASは、生徒の内面の、そしてその社会性の成長を促します。有意義なCASのプログラムとは、自分と他者を発見する旅路のようなものです。多くの生徒にとって、CASは非常に大きな意味を持ち、人生を変えるほどの経験となります。また、生徒はまた、最低1か月にわたるCASプロジェクトに取り組み、主体的に行動して、困難なことでもやりぬく力を発揮し、問題解決能力、そして意思決定能力を養います。CASの開始時期は2021年1月です。そして、CASの活動はCASの少なくとも2つの要素を含み長期にわたるCASプロジェクトも含めて、バカロレアプログラムの2年目にあたる2022年9月までに終了していなければいけません。CASプログラムでは、次のような生徒の育成を目指しています。

- CASの幅広い経験を楽しみ、その重要性を認識する人意欲的に挑戦し、前向きに新たな役割に取り組む人
- 目的意識をもって自分の経験を振り返る人持続的で、協働的なプロジェクトに積極的に参加する人
- 目標を設定し、効果的な方法を模索し、自分の成長のために必要な次の行動を見極める人
- 新しい可能性を探り、新しい挑戦を歓迎し、新しい役割に順応する人
- 計画的、持続的、かつ他者と共に活動するCASプロジェクトに積極的に参加する人
- 地域や世界のコミュニティーの一員として、他の人や環境に対して責任を負っていることを理解する人

SL/HL:

CASを完了することは国際バカロレアディプロマ資格の必須要件です。CASは正規の評価は行われませんが、7つのCASの学びの成果の達成をもって完了したことになります。生徒は、CASポートフォリオにそれぞれの学びの成果の達成を示す証拠を記録し、それを学校に提出します。生徒は、CAS活動とCASプロジェクトの枠組みとして、CASの段階表(調査、準備、行動、振り返り、実証)を使用します。生徒は、CASコーディネーターまたはCASアドバイザーと計3回の正式な面談を行い、その内容は記録されます。最初の面談はCASプログラムの開始時、2回目の面談は1年目の終了時、3回目の面談はCASプログラムの終了時に行います。

内容	評価方法
<p>CASは、以下の3つの要素で構成されています。</p> <p>創造性 (creativity) : アイデアを探究しそれを広げることで、独創性や自分の解釈に基づいた作品やパフォーマンスを創造すること</p> <p>活動 (activity) : 健康的なライフスタイルに寄与する身体的な活動を実践すること</p> <p>奉仕 (service) : コミュニティーの真のニーズに対応するために他者と共に活動を行い、かつ相互扶助の取り組みに従事すること</p> <p>『「創造性・活動・奉仕」(CAS)指導の手引き』(2015年刊)ではCASの活動について5つの段階を示しています。</p> <p>1. 調査 2. 準備 3. 行動 4. 振り返り 5. 実際に示すこと</p> <p>1回限りのCAS活動の場合は、調査、準備、行動のどれからでも始められます。継続的なCAS</p>	<p>CASには公式な評価はありませんが、以下の7つのCASの学びの成果を達成したことをCASポートフォリオで示す必要があります。にそれぞれの学びの成果の達成を示す証拠を記録し、それを学校に提出します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の長所と成長すべき点を認識する 2. 課題に挑戦し、その過程で新しいスキルを習得している 3. 自らCASを計画し開始することができる 4. CAS活動を継続し、やり遂げる粘り強さを示す 5. 献身—自分の活動において忍耐力や献身を示したか。 6. グローバル—グローバルな観点から重要な課題に取り組んだか。 7. 倫理—自らの活動の倫理的意義を考慮した

の体験の場合は、調査から始めるのが良いです。か。

生徒の責任:

生徒には、以下の事項を実施することが要求されます。

- CASを行う生徒には、以下のことが期待されています。
- 自発的にCASに取り組む
- CASで期待されていること、およびCASの目的を明確に理解する
- IBの学習者像と使命を参照し、自分の価値観、態度、特質を高める
- 自分なりの目標を定める
- CAS活動についての計画をCASコーディネーターまたはアドバイザーと話し合う
- CASの段階表を理解し、必要に応じて活用する
- CAS活動に参加し、時には自発的に活動するほか、少なくとも1回はCASプロジェクトに取り組む
- 自分の興味、スキル、才能を的確に認識し、CASのプログラム期間中にこれらがどのように発展していくかを観察する
- CASポートフォリオに活動の記録をつけて、7つの学びの成果に達成した根拠を示す
- 振り返りのプロセスを理解し、CAS活動を振り返るべき時期を確かめる
- CASプログラムで自分が達成したことを示す
- CASのコーディネーター、アドバイザー、またはスーパーバイザーと公式・非公式な面談を行い、コミュニケーションをとる
- 自分のCASのプログラムで、創造性、活動、奉仕の適度なバランスがとれているかを確認する
- 適切かつ倫理的に判断し、行動する
- 7つのCASの学習成果を達成した証拠（エビデンス）を示すこと

※生徒はすべてのCAS活動を行なう際に保護者の承諾とスーパーバイザーを持つことが生徒の責任においてなされなければいけません。生徒は活動を行う際に推測される危険を予測し、必要であれば保険に加入するなど自己の責任の下、危機管理をしなければいけません。

振り返り:「振り返り」はとても重要です。しかし、自然に身につくものではありません。「振り返り」を身につけるためには、「振り返り」の方法を学ぶ必要があります。どのような活動においても、次の点を問いかけます。

- 何を計画したか。
- 何を実施したか。
- 自分、一緒に活動したチーム、他の人にとってどのような成果があったか。
- 何に気づいたか。
- 活動について何を考えたか。
- 活動が自分自身にとって何を意味したか。
- 活動の価値は何だったか。
- 活動から何を学習し、その学習したこと（例えば、ものの見方の変化）をどのように幅広く適用するか。

CASを始める準備はできていますか？CASクイックスタートガイドをManageBacでチェックしてさっそくCAS活動を始めてみましょう！

※URLはこちら⇒<https://okisho.managebac.com/login>

CASコーディネーター：ロイゼル 歩 連絡先（Eメール）：ayumi@okisho.ed.jp

